

くまざさ



平成元年に想う
湖陵同窓会々々長 長内 宏

波瀾万丈、激動の昭和が終り、平成の新時代が始った。内外を展望するまでもなく、二十一世紀を迎える新しいうねりが一段と高まりつつあるを感じる。

あらゆる分野での国際化が叫ばれて久しいが、一方で我が日本民族固有の文化、伝統の尊重論も声高い。超高令化社会、情報化、個別化の社会にあつて我々は如何に生くべきかノ輻輳する生活の中から日々新たなるべき撰択決断が求められる。

わが母校は本年愈々校舎の建築が始められる。既報の如く素晴らしい湖陵高校として生れ変わる事を期待してやまない。関連する同窓会館問題は前号にて久本副会長が詳細にふれて居るので重複をさけるが、本年はその実質的活動展開の年となる。同窓各位の母校愛豊かな御支援、御協力を切にお願い申し上げます。

昨年九月、ブラジルにて御活躍の釧中八期、相場真一氏より奇贈戴いた、現地産の碑石は、これに校歌を刻み、永遠にわが湖陵精神を歌いつぐべく、目下製作を急いで居る。同窓生は勿論、学生諸君や訪れる多くの方々に大先輩のその志を知って戴き、若き後輩に対する世界雄飛への贈物としたい。昭和六十一年四月、御着任以来大湖陵の建設に全力を傾注された町田校長先生は、惜むかな三月を以つて御退任になられる。今後は別な御立場での一層の御活躍と母校への御支援を願ひ、更なる御健勝を祈念すると共に、心より御礼申し上げます。

同窓会活動は親睦、連携、互助と母校への後援にある事は論を俟たないが、更に長寿社会の中で、わが同窓会館が共に生き共に進む生涯連帯の喜びを味う新しい場になりたいたいものと念願して居る次第である。四十一期生諸君の卒業を祝いつつ



まず和してよりよく生きん
学校長 町田 康雄

「人生は邂逅である」と、亀井勝一郎は云つています。人は、よき人(師・友)、よき書(書類)、よき大自然(環境)との素晴らしい「めぐり逢い」によつて育つと云われます。私も、数年前、ある珠玉の言葉との「めぐり逢い」によつて心の霧が晴れ、とても清々しい気持ちになることが出来たことがあります。「まず和して、しかる後に大事をなせ」中国、春秋の孫子と並び称せられた呉起の言葉との「めぐり逢い」でした。私は、それまで事に処するに共通理解を図り、そして共に行う共通実践が何よりも大切と力説してきました。しかし、「解つた、解つた」という表面的な共通理解は出来るものの、共通実践が一向になされないという場面に遭遇することが多く、悩みの種でした。呉起の言葉は、私のこうした悩みを破砕してくれました。すべてに先駆けて全幅の感謝の心をもつて相手と共通の接点を見出す「まず和して」こそ、最も大切なものであったということに、私なりに開眼した次第です。旧臘「還暦記念回顧集」を上梓させていただくに際し、書名「感謝しつつ」のサブタイトルに、「まず和してよりよく生きん」を附し

たのも、私自身、思考の展望が豁然と開けた喜びを込めたものです。そのおおよその大意を図示すると、次のようになります。

まず和してよりよく生きん
 (出会い)(ふれ合い)(めぐり逢い)
 共通レベル→共通理解→共通実践

校訓

勇(実践)
愛(創造)
誠(感謝)

人、それぞれに例えようもなくかけがえない人生、それだけに出会いを大切に、ふれ合いをより深め、めぐり逢いに感謝して——まず和して、よりよく生きん——と念じつつ人生の来し方をふり返り、明日をみつめる今日此頃です。今、湖陵は「温故知新」の心を大切に、「大湖陵」をめざして、教職員、父母、生徒が一体となり飛翔を遂げつつあります。ハード面である校舎改築は、その整地も終り、いよいよ全容をあらわそうとしていますし、ソフト面では愛される湖陵生、実力を発揮できる湖陵生たるべく万身の精進を続けているところです。同窓の皆様の一層の御支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

各地同期会近況報告

同期会花ざかり

悪童・三十年ぶりの再会

東京ミニ同期会

私達昭和三十二年卒業生の同期会が昨年、初めて開催された。本州在住者の実に三十年ぶりの集いであった。

そして今年十月十四日、第二回の集いが終わった。東京ミニ同期会の名称は「昭和三十二年卒業」からつけたものである。(昭和三十二年卒業生は、釧路湖陵七期生であるべきが、第九期生に間違われている。)



八重州・いずみやにて撮影
東京ミニ同期会のメンバー

さて、三十年ぶりの再会は男性は中年太りの貫禄?白髪の紳士?女性の方も……プラス皺がふえ、昔の美少年・美少女も……?。それでも各自のおもかげを残

し、一目見て「オッノオマエは杉山ノ」「オオノ工藤ノ」などと、年月を超えた悪童時代の会話があつちこつちで、とび交いました。第一回以来、各人改めての自己紹介は、自分の履歴であつたり、現在の会社のピアーールになったり……にぎやかな野次もとび出し、和気あいあいの中に進められました。

去年は神戸から駆け付けてくれた佐藤尚武君が一番遠方よりの友でした。今年には新潟から杉山和江さん、仙台から桑山峯子さん、潜在井淑子さんの三人というように、だんだんとその輪が広がつてうれしく思います。

写真でわかるように、女性十四名、男性十八名の出席で大いに盛り上がり、声高らかに歌った懐しい校歌・応援歌は、昭和二十九年に入学し途中で転校していった友にも参加を呼びかけ、次回へ大いなる希望を与えつ、またの再会を約し各自がそれぞれ二次会へと流れて行ったのである。

(東京 吉井 克明記)

噫々青春謳歌祭

苫小牧支部の誕生

昭和六十三年五月二十一日、苫小牧、成志会館に於て、「釧路湖陵同窓会苫小牧支部」が、本部長

り長内会長を迎え、爽やかに呱呱の声をあげた。本部より記念に贈られた支部旗が長内会長から藤田信一苫小牧支部会長の手にしっかりと手渡された。

勇払原野を背景に製紙業を基幹産業とし、スケート王国である苫小牧はかなり釧路と似た街である。この苫小牧でも、釧中・湖陵同窓生の懇親会的集まりはかなり以前からもたれていた。それが苫小牧支部誕生に至ったきっかけは、昭和五十九年から苫小牧で毎年開かれていた「噫々青春謳歌祭」にあつた。旧制中学、旧制高校、大学の卒業生達が、弊衣破帽、羽織袴の応援団姿等装いを凝し、校歌、寮歌、応援歌等を歌いあい、青春の日々を確認し、明日への糧とする行事である。そこに旧苫中、旧旭中等も参加しているのを知り、道東の雄、釧中・湖陵ここにありと第二回より参加、六十二年の第四回大会では、母校より大応援団旗を借用し、太鼓の音をとどろかせ「日出づる国の……」「阿寒のお山の……」と声を張りあげ、見事特別賞を受賞した。練習だといっては集まり、賞をもらったといつては集まり、酒をくみ、老いも若きも肩を組み歌つたことが支部結成の大きな原動力であつた。

現在、会員四十三名。苫小牧市



及び近郊には釧中・湖陵卒業生はまだ多くいる。その会員の堀りおこしが当面の大きな活動である。転勤族が多いのも悩みであるが、活動を活発にし、結束を強め、新しい会員をどんどん吸収したいと思つている。事務局長は王子製紙湖陵十一期鈴木健夫氏である。

(湖陵十二期 中村 博)



釧中32期 奥田達也

予科練帰り

敗戦の年、昭和二十年は国の騒乱期、釧中もその渦に巻き込まれざるを得ない。

天皇の終戦詔（みことり）も知らずに上札鶴の山中に居た勤勞奉仕中の生徒であった。

五日後に「日本の敗戦」を馬車追いに知らされたあとも引率の教師から何の連絡もない。そんな時も教師に腹を立てずにおられたのは、分散した生徒らを監督する教師が環境や待遇の良い街に滞在するのを当然と受けとめていた気持ちにある。信頼感は愛国心の高揚とは別に低下しつづつあった。

教師への不信、不満は戦後の作業ポイコットとしてもあらわれた。敗戦で帰郷した予科練帰りも、授業のない学校に置いておくわけにはゆかず、援農作業場へ追い立てられた。造材作業から一たん帰郷した生徒も近効の農家へ牧草刈りに駆出されている。

聖戦の協力と違い、敗戦の復興のお手伝いが大義名分には程遠いことが生徒達の心を荒（すさ）ませたのは当然のすうせいだった。引率教師さえ姿を現わすことなく、班長になった生徒が真面目

恩師が復学努力

「愛国心の現れ」も退学へ

に作業を指示しても反抗する者が日に日に増えるばかりだった。

予科練帰り某生徒が赴いた援農作業場に東北地方の専門学校生徒がきていた。その年上の他校生徒が作業のポイコットを呼びかけてきた。たまたま引率教師は土井陸軍歩兵伍長の「土助」と仇名される教師の先生であった。入学時から号令をかけられ、採点されているはずと思っている当時の在校生には「土助」の意味もわからない。

軍隊へ必ず入る生徒にとって一番響くと云われる教練の点数、それは将来に大切な科目であった。だが今、旧教職員名簿にもその氏名は載っていない。単なる助手であり、教員でも配属将校でもなかった。教官不足を補うために雇われていただけらしい。うっせきしたものが彼なりにあったことは想像される。軍隊の古参兵が新兵いじめをするように、生徒を鍛えられないようにとの本当の愛情であったか、当時の人々に聞いてもす

報国の志を抱いて予科練へ入り、死ぬことを考えていた某に疑問も迷いも多い。向学の意欲を失った某は旅に出た。

「予科練にはいり、命を捧げるのが愛国心のあらわれである」といった大根田資雄校長は一変して、そんな某を退学にした。怒つたのは某の小学校時代の恩師であった。大根田へ掛合った。「復学が遅れただけであるから、同学年に編入させるべきだ」と。だが某は入学時の同期生と一緒に卒業し、同期の集りにはいつも出席、しみじみ小学校恩師の愛を噛みしめている。自分の結婚仲人を恩師に頼んだことがその証左といえよう。

将来のためを思っても厳しくされた先生、上級生は憎く、優しくしてくれた人々は有難い。いつの時代にも変りはないらしい。

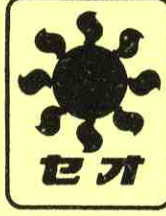
一方、最上級生徒で予科練から帰校挨拶に訪れた某君は、「一学年下がってもよいか」と大根田に云われ、なに気なく、度量の大きさを示そうと、「はい、結構であります」と答えれば、結核の言葉通り一学級下へ編入され、下級生と一緒に卒業するはめとなった。今なお、同期会の席上、苦笑いしながら、「いうべきでなかったよな」

「予科練にはいり、命を捧げるのが愛国心のあらわれである」といった大根田資雄校長は一変して、そんな某を退学にした。怒つたのは某の小学校時代の恩師であった。大根田へ掛合った。「復学が遅れただけであるから、同学年に編入させるべきだ」と。だが某は入学時の同期生と一緒に卒業し、同期の集りにはいつも出席、しみじみ小学校恩師の愛を噛みしめている。自分の結婚仲人を恩師に頼んだことがその証左といえよう。

将来のためを思っても厳しくされた先生、上級生は憎く、優しくしてくれた人々は有難い。いつの時代にも変りはないらしい。

一方、最上級生徒で予科練から帰校挨拶に訪れた某君は、「一学年下がってもよいか」と大根田に云われ、なに気なく、度量の大きさを示そうと、「はい、結構であります」と答えれば、結核の言葉通り一学級下へ編入され、下級生と一緒に卒業するはめとなった。今なお、同期会の席上、苦笑いしながら、「いうべきでなかったよな」

あたたかなふれあい



**太陽のように
明るく暖かい真心で
良い品をより安く
ご奉仕する**

セオチェーン

妹尾商店
新橋大通1丁目 ☎25-5345

新富士ストア
新富士駅前 ☎51-3467

愛国ストア
愛国西3丁目 ☎36-3399

白樺ストア
白樺台1丁目 ☎91-5423

昭園ストア
昭和北1丁目 ☎51-8853

さつぼろ地下街オーロラタウン
ギフトブティック

ペルソナ
オーロラプラザ前 ☎(011)241-3830

●味が自慢の本格派レストラン●
ステーキハウス アポロン

新橋大通1丁目妹尾商店向 ☎25-7023
営業時間 / AM11:00~PM9:00



わが湖陵の時代

湖陵十四期 寺田 寿 昭

私達十四期生は、三十七年の卒業で、あの頃はちょうど六十年安保の騒然とした時代を経て、高度経済成長の幕開きのときであった。校内で反安保の集会もあり、デモも行われたが、時局は激しく動き、池田首相の「所得倍増論」を半信半疑で聞き、ケネディ大統領のニューフロンティアに感激したものであった。一方、テレビがどんどん普及して行く時代でもあったから、私達はこの新しいメディアを通して、大いにスポーツや娯楽に親しむことができた。また、クラブ活動が盛んで、文化部やスポーツに関った仲間も非常に多く、当時、湖陵はその先端にあったのではないだろうか。

さて、我が家は、離農の貧しい家庭であったから、私は家業の薪炭業を手伝い、様々なアルバイトを経験した。生れつき体が弱く、体格も貧弱であったから、父親は私に体力づくりも兼ねて、自分の小使いは自分で嫁ぐように奨め、授業料以外の金銭は一切貰えなかった。夏、冬休みは決まってアルバイトをしたし、学校から帰ると

毎日リヤカーをひいて薪や木炭を配達した。アルバイトの収入は、本代や映画代、流用した授業料の穴埋めのために大変貴重であった。駒場町の自宅から学校へは中古の自転車通学し冬は歩くことが多かった。こんな具合で、私自身にはクラブ活動や放課後の自由な時間は余り無かったが、次第に体力にも自信が持てるようになり、学校では、快活なクラスメイトに混って、ウサギ狩りや春採湖、千代の浦をめぐるマラソン等にも結構元気に参加できたのである。湖陵の時代の懐かしい思い出は沢山あるが、一番印象に残ると言えば、やはり行灯行列の後のフアイヤーストームではないだろうか。グラウンドの中央で火の粉を吹き上げて燃えさかる行灯を囲み、肩を組み合せて「阿寒の山の一」を唱っている時の皆の顔の赤さが、まさに青春の血のたぎる熱さであり、我が青春の原点であったかと思う。

わが青春は...

伝統ある憧れの湖陵高校に合格したときの喜び、入学式の感激は今もって私の心の中に強く残っています。原稿を依頼され、湖陵在学中の三年間で、とり立てて「わが青春の証はこれだ」と、言えるものがあるませんが、青春のページとしての想い出をあげるなら、それは演劇部に入って文化祭・高文連等のコンクールに出演した事です。

作品は三井三池炭鉱で二百五十名余りの死者を出した、新聞記事を題材として、炭鉱事故での後遺症を苦しめて自殺した男の残された母子を軸に、それを取りまく会社側と遺族の問題を、シリアスに描いたものでした。部員が少なく、他のクラブの友にも応援を頼み、毎晩、夕ごはんも食べずに遅くまで学校で、また時には公民館を借りての練習でした。大道具から小道具まで全て、自分たちの手作り、美術が最も苦手な



青春の思い出

湖陵二十四期 尾崎 佐恵子 (旧姓宮下)

私でさえも絵筆をもって悪戦苦闘した毎日でした。いよいよ文化祭の幕が上がり、役の中に自分のめりこんでいくのがわかりました。周囲の反響も予想以上に好評で、胸をなでおろしたものです。高文連では優勝しましたが地区の代表校は残念ながら他校に座をうばわれてしまい、結局、私の演劇部員生活も、この一年で終わってしまった。あとの二年間は演劇とは似ても似つかない華道部員で過ごしました。湖陵を卒業してはや十七年が過ぎようとしているが、不思議と「日出づる国の……」で始まる校歌は今でもスラスラと口ずさむ事ができるのです。やはり私の心の中で「湖陵」は生き続けているのだなあと、実感しています。



御婚礼・御宴会・御会合・御宿泊

れんが屋★AM11:00～PM11:00
 トロイカ★AM 8:00～PM11:00
 パシフィックイン・八まき・八宝園

政府登録国際観光ホテル・日本ホテル協会会員

釧路パシフィックホテル

中村 隆(釧中27期)

釧路市栄町2丁目6番地 ☎24-8811

湖陵同窓会総会報告

湖陵六期・十六期・二十六期のアイデアあふれる演出

昭和63年度同窓会の思い出

湖陵16期 鈴木豊治

昭和六十三年度の同窓会総会は湖陵六期、十六期、二十六期が年番幹事となり、八月十四日キャッスルホテルにおいて盛大に開催されました。今となつては、昭和で最後の同窓会となつたわけで、ひと際感慨深いものがあります。

私達十六期は、昭和三十六年に「無試験」で入学し、東京オリピックの開催された昭和三十三年に卒業したのですが、これまでにミニ同期会を一回開催したきりで仲間の消息なども、個々のつき合いの中だけでしかわからない程度で、年番幹事を引き受けるにあたって大変不安な気持ちがあつたわけです。

しかしながら、仲間の間では連絡を取り合い、この同窓会に合せて里帰りを計画して、何年間も、預金をしている人がいること聞き何としてでもこの同窓会を成功させなければならぬと意を強くしたのです。

六月にはまず、市内にいる各クラスの有志に案内をして準備のための集会を催したところ、予定の倍もの仲間が集り、さながらミニ同期会となりました。

卒業後二十四年、人生の半分にあたる四十三才になる我々は、仲間に対する郷愁が強くなつており是非この機会に同期会を開催してほしいとの要望が出されたのです。まずは名簿の整理からです。

各クラスの幹事が持ち寄つた名簿では、最初約百名の仲間の住所しかわかりませんでした。全国に同期会開催の案内と、住所の知る仲間の消息などを返信葉書で回収したところ、どんどん輪が広がるところとう卒業時三七七名の仲間の中二九〇名の所在が確認されました。中で五名の死亡も確認され、哀感ひとしおでした。

七月末日、釧路市内で盛大な同期会が、遠くは大阪、東京、道内各地からと、実に二十四年ぶりに開催されました。

この同期会の開催によって、同窓会の準備に一段とはずみがついて、協力体制が整いました。

同期会の会長、副会長、幹事長の選出、各クラス（八クラス）より数名づつの幹事が選出され、それぞれ、総務、受付会場、アトラクション、景品等の係が決まりました。年度の打合せを行い、準備の確認をし、とうとう同窓会総会の当日となりました。

我ら十六期は、九州、大阪、富山、東京など全国から沢山の仲間が集結し、総勢七十名が会場にかつきました。

皆が在学の時のように、いや、それ以上に一致団結して会の運営に当り、豪華な景品を取りそろえた抽選会や、地元の歌手による演歌のアトラクションなど、素晴らしい時間がアツという間に過ぎ、昭和六十三年度同窓会総会は、我々の胸に大いなる思い出と、素晴らしい仲間の輪を広げて閉会しました。卒業生の諸君、今は実感としてわからないかも知れませんが、君達にも同窓会の幹事が回つてきます。

湖陵を愛し、仲間を愛し、先輩を敬い、後輩をいつくしむ、湖陵の伝統が続く限り、同窓会は続きます。どうかその時はもつともっと素晴らしい同窓会総会を設営して下さい。ご指導下された同窓会事務局、六期の先輩の皆様、一生懸命お手伝い下された二十六期の皆様、本当にありがとうございます。

全国の我ら「無試験会」の仲間達、いつまでも元気で、又いつの日か再会する日を楽しみに。



御卒業・御入学の喜びを1枚の写真に……

湖陵・江南・北陽・星園・短大高校他
市内小中学校卒業アルバム専属作成

株式会社 工藤写真館

工藤寿男(釧中26期)

釧路市南大通5-3-7 TEL 41-5751

駐車場(20台収容)完備



菅野博文

ついこの間入学したような気がしますが、気づくともう卒業、月日の過ぎるのは本当に早いものだと実感しています。

入学する前は、進学校ということで、ガリ勉生ばかりいるのではないかと思ったりしました。しかし入学してみると、勉強はもちろんのこと、スポーツなどにも非常に皆が一生懸命な文武両道の活気ある学校でした。僕も三年間がんばろう、と心に思ったあの時のことが、つい昨日の事のように思われます。

振り返って見ると釧路を出て来てこの三年間は、色々な人との出会いの連続だったと思います。死ぬまで忘れないだろうクラスメイト、先輩、後輩、そして諸先生：一つ一つの出会いを通して、自分を冷静に見つめること、物事は一面的にはなく、大きな視野で色々な側面から捉えてみる。ことなど随分多くのことを学んできたと感じます。今は、多くの人に会えたことを幸せに思うと共に、一人一人に感謝の気持ちで一杯です。

そしてこれからも、このような出会いを大切にしていこうと思えます。

僕は将来、小学校の教師になろうと心に決めています。子供達と一緒に自分自身も常に成長できる



やりがいのある職業だと思っています。

これから先自分には、一人の大人としての責任が増してくると共に、様々な厳しい人生の問題にも直面していくことと思います。けれども、この湖陵高校での三年間を誇りとし、励みとして、一日一日を悔いのないよう全力で生きていきたいと強く思っています。僕はこの高校での三年間を、決して忘れません。



中村晴美

湖陵高校に入学して早三年もたち、私達は様々な思いを胸に秘め「ほたるの光」と共にこの学び舎を巣立ちます。振り返ってみると湖陵高校での思い出は数えきれないほど多くあり、今でも鮮明にひ

とつひとつを思い出すことができ

ます。湖陵の「すこさ」を実感させられる新入生歓迎会に始まり、クラスの団結力を強めた体育祭・文化祭・遠足などの学校行事、葉しかった修学旅行、辛いことも多かった部活動、ハトの飛ぶ体育館そして寒い教室で唯一の暖房である石炭ストーブを囲んで友人達と話したことや、先生方にいろいろご指導いただいたこと……どれも皆、高校時代の良き思い出です。あと数年で湖陵高校は新築され

私達の通った学び舎がなくなってしまうことを考えると少し寂しい気がしますが、が、設備の整った新たな校舎でも、今までの古き良き伝統を守りつつ、新しいものをさらに生みだしていくことを在校生に期待しています。湖陵はまさに自分の個性をのびのびと生かし、生徒が中心となって物事を進め、充実した高校生活を送ることのできる学校です。それで今でも、入学時の湖陵への期待や夢は裏切られることなく、むしろ大きく膨らんで、私達は学び舎を巣立つことができ

ます。皆それぞれ進む道は違いますが、湖陵高校卒業生としての誇りと自信を持って、これから自分の選んだ道を歩いていきたいと思っています。

最後に、私達卒業生は、湖陵高校でめぐりあうことのできた諸先生、多くの友人達、そしてそこで過ごした高校時代の日々や、たくさんの素敵な思い出を、いつまでも決して忘れることはないでしょう。

釧路市幣舞町2番2号

株式会社 吉井写真館

代表取締役 吉井 祥 朔 (湖陵18期)

電話 41-4798番

御卒業・御入学の
晴れの日を
歴史の1ページに…

学園だより'88

ことしの活動を
を振り返って

同窓生の皆さま、いかがお過ごしですか。「くまざさ」19号発刊に当り、この一年を概略振り返ってみたいと思います。

〈四月〉

- ・新年度スタート。小林孝幸教頭以下11名の新任教職員を迎える。
- ・昭和63年度入学式(新入生四四六名)

〈五月〉

- ・高体連鋼根支部予選など、対外試合始動する。

〈六月〉

- ・宿泊研修(一年生、弟子屈)。
- ・高体連陸上競技全道大会当番(同窓生の皆さんには広告寄附等でご協力を仰ぎ、無事終了)。
- ・高体連全道大会(陸上・剣道・柔道・弓道・体操・軟テニス・硬テニス・羽根球・バスケットボール・ハンドボールが出場)。
- ・春季高校野球全道大会(函大有斗に決勝で惜敗)。
- ・文化系クラブ全道大会(放送・囲碁・検沢仁宏君準優勝、三年連総全国高校選手権大会に出場)。
- ・新校舎校地(緑ヶ岡ゴルフ場)の整地に着手。

〈七月〉

- ・夏期進学講座(三年生、延べ五四名参加)。

- ・放送部NHK杯全国コンテストに参加(ラジオ部門五位、研究発表部門四位)。

〈八月〉

- ・全国高校囲碁選手権大会に検沢仁宏君出場(八位)。
- ・第38回湖陵文化祭(第一日あんどん行列、第二・三日本祭、テーマ「輝時」とき)。

〈九月〉

- ・高校新人戦・選抜等全道大会(陸上・柔道・硬テニス・弓道・体操・バスケットが出場)。
- ・高文連等全道大会(美術・新聞・書道・生物・写真・合唱)全国大会へ・器楽(全国大会へ)。

〈十月〉

- ・見学旅行(二年生、五泊六日、京都・奈良・東京)。
- ・秋季高校野球全道大会(二回戦で無念の敗退)。
- ・本校教諭正木洋氏「正木先生の風の旅」を出版。

〈十一月〉

湖陵文化産業 第1号



- ・第九回同窓生教育講演会(一年生対象、講師・綿貫健輔氏)湖陵17期(演題「鋼路の文化・産業を支える人」)。
- ・本校教諭永田秀郎氏「中川久平―郷土に生きる梅楓精神」鋼路新連載)を出版。
- ・新校舎敷地の整地完了。

〈十二月〉

- ・町田康雄校長・還暦回顧集「感謝しつつ・まづ和してよりよく生きる」を出版。
- ・共通一次試験(二六〇名受験、今回が最後、来年度より「新テスト」に移行)。
- ・ハンドボール高校選抜全道大会(男子八年連続九度目の優勝、三月名古屋市の全国大会へ)。
- ・全国高校スケート選手権大会(アイスホッケー・ベスト八、フィギュア個人参加)。
- ・相馬真一氏(鋼中八期・元ブラジル南米銀行副頭取)より寄贈された碑石のレイアウト、設置場所構想なる。

〈二月〉

- ・防災避難訓練(昭和28年2月22日の旧校舎焼失を記念して、毎年この時期に実施)。

〈三月〉

- ・第41回卒業式(卒業生四一一名、卒業生総数一九、一七七名)。
- ・その他
- ・湖陵文庫寄贈本(66名96冊)。

湖陵キャスリ―寄贈絵画・書・彫刻(15名17点)(二月末現在)
卒業生の動向など(別表)
紙面の都合もあり、手短かな内容となりました。ご容赦下さい。今年度もまた、多忙だった一年が過ぎようとしています。同窓生の皆さま、今後とも母校のため、後輩のためによくお願いいたします。(文責・湖陵四期 和田信幸)

昭和63年度(平成元年3月)卒業生の動向

	進学希望	就職希望	家事自営	その他	合計
男子	258	7(5)	0	2	267
女子	130	10(10)	1	3	144
合計	388	17(10)	1	5	411

()内は就職内定者

昭和63年度(平成元年3月)卒業生の受験校(延べ数)

	男子	女子	合計
国公立大	344(281)	85(113)	429(394)
私立大	286(343)	94(121)	380(464)
短大	12(7)	94(121)	142(163)
各種専門校	6(16)	130(156)	142(163)
準大学	9(4)	57(51)	63(67)
合計	657(647)	0(2)	9(6)
	1人当りの受験校		2.6(2.6)

()内は昨年

鋼路ロイヤル銃砲店

Modern Chic

モダンシック 長崎店

高橋映司(湖陵2期)

鋼路市堀川町5-20

花井画廊

花井哲雄

(湖陵2期)

鋼路市新富士町16-15

事務局だより

会員の皆様始め在校生の皆様におかれましては、それぞれの分野でお仕事に、勉強にとお励みの毎日のこととご拝察申し上げます。昨年の八月に新装なったキャッスルホテルにおいて、昭和六十三年湖陵同窓会総会を盛大に終了することが出来ました。当番幹事の皆様の大変なご努力に対し、衷心より厚くお礼申し上げる次第であります。

この機会に紙面をお借りし、同窓会の近況について若干ふれさせていたただきたいと思えます。その一つは同窓会館の建設問題でございます。皆様にはすでにご案内のとおり、湖陵高校の改築がいよいよ平成元年を期して着工の運びとなる予定でございます。これまで根強く陳情を続けてこられました関係者の皆様に心から敬意を表するとともに、厚くお礼申し上げる次第でございます。前記のとおり校舎改築に伴って必然的に同窓会館の建設問題が浮上して参りました。なぜならば何年前か一度この問題に対し、建設計画が樹てられた

ことがございます。しかし、頂度の時期に現在の校舎の改築問題が持ち上つて来たため、同窓会館は一時棚上状態になっているのが現状でございます。したがってこれを機会に是非建設をといて気運が高まって参りました。先日同窓会から長内会長、久本副会長、遠藤幹事長各位が前梅山教育長、そして町田学校長とで一緒に道の教育委員会に対し、陳情を行った結果、認可される方向で進んでおり、やがて新しい校舎と同窓会館が素晴らしい姿を現わせるものさう遠くない時期ではなからうかと、今から心待ちにしているものでございます。

す。さつそく役員会を開き、受け入れ態勢を整え、この度設置の運びとなり、まもなく完成する予定でございます。会員の皆様におかれましては、何にかの機会に是非お立寄りいただき、校歌を刻み込んだ石碑を是非ご覧いただきたいと思えます。いづれにいたしましても、前述のように同窓会館建設という大きな柱が出来ました。これにいたしましても同窓会各員皆様のご理解とご協力をなくしては、決して成し得るものではございません。役員始め関係者一同一生懸命の努力を致す所存でございますので、今後とも力強いご支援、ご協力をお願い申し上げます。事務局からのおたよりとさせていただきます。

編集後記

雪の少ない釧路の正月にめずらしく二日の雪で、久しぶりの銀世界が広がった昭和も、七日に天皇崩御の報に接し、長かった昭和に終わりを告げ、いよいよ新しい時代の初まりである。

我が湖陵会誌「くまざさ」も回を重ね十九号の発行をむかえた。母校の生徒諸君の活躍も去ることながら、町田校長先生の御勇退に、心より「ご苦労様でした」の拍手とねぎらいの言葉をおくりまします。時移り、人変り、時代の変遷をいつそう強く感じるこの頃です。

母校の生徒諸君も、いよいよ着工された緑ヶ岡の新校舎への期待に、胸をおどらせていることと推察いたしますが、それ以上に私共

編集委員

長内 宏・遠藤 隆吉
関口 政司・和田 信幸
若原 孝夫・吉井 正



知性と工夫で勝負する情報集団

釧路総合印刷株式会社

〒065 釧路市白金町19の2 TEL 0154-23-9201 FAX 0154-23-9205